令和５年度　　３学年　数学科　年間指導計画・評価計画

担当［正田修平・野口凌央］

教科の目標	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力，数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。	①習熟度別少人数授業を活用し、習熟度具合に応じた反復学習の実施や、個に応じた指導を実施する。 ②放課後や夏季休業中に、学習教室を実施する。 ③夏季休業中に、基礎・基本のより一層の定着を図るため、課題を準備する。 ④確認テストの実施や定期考査の解き直し、ICT 機器を活用した授業の振り返り等を通して、個々の生徒が学習を振り返る場面を設ける。	①既習事項を生かして個々で考え、新たな解答方法を見いだす。 ②論理的な表現力を身に付けるため、自分の意見を数学的な表現を用いてまとめ、説明する。 ③身近な場面の問題解決型のグループ学習を実施することにより、自分と他者の考えを比較しながら、判断する力を養う。 ④ICT 機器を活用して他者と考え方を共有し、問題に対して様々な視点から考察する。	①授業につながりを持たせるために、授業のはじめに前時の復習を行う。 ②それぞれの単元を学習したことにより、身の回りのどのような場面に活用できるのかを考える学習内容を設定する。 ③長期休業中の期間を、個々の生徒の学習を充実させる良い機会と捉え、学習教室を設定して学習する時間を確保する。 ④授業ごとの目標を明確にし、振り返りシートを通して目標の達成度を確認する。	①定期考査だけでなく各単元の進度に応じた確認テストを実施する。 ②ノート、ワーク、プリント等の点検や、振り返りシートを通して、生徒の学習状況を適切に評価する。 ③個々の生徒に長期休業日の前に、学習状況を伝えることにより、各自の学習の課題を明確にする。 ④ICT 機器も活用しながら、課題のやり取りを行う。

◎単元（１～数十時間の学習内容のまとまり）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう態度
４	第１章 式の計算 １節 多項式の計算 ２節 因数分解	資料を大型モニターに提示 Googleclassroom を活用し、意見の交換、共有を図る	13	・単項式と多項式の乗法、多項式を単項式でわる除法、簡単な１次式の乗法の計算ができる。 ・展開の公式を用いる簡単な式の展開ができる。 ・展開の公式がもつ意味を理解し、式を能率よく処理することができる。 ・因数分解が式の展開の逆であることを理解している。 ・共通因数でくくり出す因数分解、因数分解の公式を用いる簡単な因数分解ができる。	・すでに学習した計算の方法と関連付けて、単項式と多項式の乗法、１次式の乗法の計算方法の計算方法を考察し、説明することができる。 ・すでに学習した計算の方法をもとに、展開の公式を見いだすことができる。 ・すでに学習した計算の方法と関連付けて、式を因数分解する方法を見いだすことができる。	・すでに学習した計算の方法と関連付けて、単項式と多項式の乗法の計算方法を考えようとしている。 ・すでに学習した計算の方法と関連付けて、１次式と１次式の乗法の計算方法を考えようとしている。 ・すでに学習した計算の方法をもとに、展開の公式を見いだそうとしている。 ・すでに学習した計算の方法と関連付けて、式を因数分解する方法を見いだそうとしている。
５	３節 式の計算の利用 ２章 平方根 １節 平方根		13	・文字式で一般的に表現し説明することの必要性と意味を理解している。 ・数の平方根の必要性と意味を理解している。 ・√の記号を正しく用いることができる。	・式の展開や因数分解を具体的な場面で利用することができる。 ・文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明することができる。 ・数の平方根の近似値を求める方法について考察し、説明することができる。 ・有理数と無理数の違いについて考察し、説明することができる。	・文字式を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。 ・式の計算について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・数の平方根の必要性と意味を考えようとしている。 ・有理数と無理数の違いを考えようとしている。

6	2節 根号をふくむ式の計算 3章 ２次方程式 1節 ２次方程式	資料を大型モニターに提示 Googleclassroom を活用し、意見の交換、共有を図る	15	・平方根をふくむ四則の計算ができる。 ・分母を有理化することができる。 ・平方根をふくむいろいろな計算ができる。 ・近似値と誤差の意味を理解している。 ・２次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解している。 ・因数分解や平方根の考え方、解の公式を用いて２次方程式を解くことができる。	・平方根をふくむ四則の計算方法について、具体的な数をもとに考察し、説明することができる。 ・分配法則や展開の公式と関連付けて、平方根をふくむ式の計算方法を考察し、説明することができる。 ・係数が数字で表された２次方程式の解き方と比較して、係数が文字で表された２次方程式の解を求める手順を考察することができる。	・分母を有理化する方法を考えようとしている。 ・平方根について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・２次方程式の必要性と意味を考えようとしている。 ・因数分解や平方根の考え方をもとにして２次方程式を解く方法を考えようとしている。
7	2節 ２次方程式の利用		11	・２次方程式を用いて問題解決する方法を理解している。	・２次方程式を能率的に解く方法を考察することができる。 ・２次方程式を具体的な場面で利用することができる。 ・得られた結果を意味付けしたり活用したりすることができる。	・２次方程式を能率的に解く方法を考えようとしている。 ・２次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・２次方程式を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
夏休						
9	4章 関数 $y=ax^2$ 1節 関数 $y=ax^2$ 2節 関数の利用	資料を大型モニターに提示 Googleclassroom を活用し、意見の交換、共有を図る	13	・関数 $y=ax^2$の意味を理解し、事象の中に関数 $y=ax^2$として捉えられるものがあることを知っている。 ・関数 $y=ax^2$のグラフの特徴を理解し、関数 $y=ax^2$をグラフに表すことができる。 ・関数 $y=ax^2$の変化の仕方を理解し、変域を求めることができる。 ・比例、反比例、１次関数、関数 $y=ax^2$とは異なる関数関係があることを理解している。	・具体的な事象から関数 $y=ax^2$の関係を見いだし、見いだした関係について説明することができる。 ・関数 $y=ax^2$の変域や変化の仕方について、原点や a の値に着目して考察し、説明することができる。 ・関数 $y=ax^2$を具体的な場面で利用することができる。 ・具体的な事象から式で表すことが困難な関数関係について、表やグラフを用いて考察し、説明することができる。	・関数 $y=ax^2$の表、式、グラフを相互に関連付けようとしている。 ・関数 $y=ax^2$について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・関数 $y=ax^2$を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
１０	5章 相似 1節 相似な図形 2節 平行線と線分の比		16	・相似な図形の意味や性質、三角形の相似条件を理解している。 ・相似な図形の相似比と面積の比との関係を理解している。 ・基本的な立体の相似の意味と、相似な立体の相似比と表面積の比、体積の比との関係を理解している。 ・三角形と線分の比の性質を用いて、線分の長さなどを求めることができる。	・三角形の合同条件と対比させながら、三角形の相似条件を見いだすことができる。 ・２つの三角形が相似であるかどうかについて、三角形の相似条件をもとにして説明することができる。 ・三角形の相似条件などをもとに、図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ・三角形の線分の比についての性質を統合的に捉えることができる。 ・中点連結定理を平行線や線分の比の特別な場合として統合的に捉えることができる。	・三角形の合同条件と対比させながら、三角形の相似条件を見いだそうとしている。 ・三角形と線分の比についての性質を統合的に捉えようとしている。

１１	３節 相似の利用 ６章 円 １節 円	資料を大型モニターに提示 Googleclassroom を活用し、意見の交換、共有を図る	15	・平行線と線分の比の性質を用いて、線分の長さなどを求めることができる。 ・相似を利用して問題解決する方法を理解している。 ・円周角と中心角の関係の意味、円周角の定理の逆を理解している。 ・円周角の定理を用いて、角の大きさを求めることができる。	・平行線と線分の比についての性質を見いだし、それらを確かめることができる。 ・相似な図形の性質を具体的な場面で利用することができる。 ・円周角の定理の逆を具体的な場面で利用することができる。 ・円周角と中心角の関係を具体的な場面で利用することができる。	・平行線と線分の比についての性質を見いだそうとしている。 ・相似について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・相似を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。 ・円周角と中心角の関係を見いだそうとしている。 ・円の接線の作図を見通しを立てて行おうとしている。
１２	７章 三平方の定理 １節 三平方の定理 ２節 三平方の定理の利用		13	・三平方の定理と三平方の定理の逆を理解し、それが証明できることを知っている。 ・三平方の定理を利用して問題解決する方法を理解している。	・三平方の定理を見いだすことができる。 ・三平方の定理を具体的な場面で利用できる。	・三平方の定理を見いだそうとしている。 ・三平方の定理について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・三平方の定理を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
１	８章 標本調査 １節 母集団と標本	資料を大型モニターに提示 Googleclassroom を活用し、意見の交換、共有を図る インターネットを用いて資料を集める	13	・標本調査の必要性と意味を理解している。 ・コンピュータなどの情報機器を用いるなどして無作為に標本を取り出し、整理できる。	・標本調査の方法や結果を批判的に考察し説明することができる。 ・標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断することができる。	・標本調査の必要性と意味を考えようとしている。 ・標本調査について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・標本調査を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
２	３年間の復習		13	・すでに学習した内容を総合的に活用しながら、いろいろな問題を解くことができる。	・すでに学習した内容を総合的に活用しながら、いろいろな問題の解き方について考察し、説明することができる。	・すでに学習した内容を総合的に活用しながら、いろいろな問題に取り組もうとしている。
３	３年間の復習		5	・すでに学習した内容を総合的に活用しながら、いろいろな問題を解くことができる。	・すでに学習した内容を総合的に活用しながら、いろいろな問題の解き方について考察し、説明することができる。	・すでに学習した内容を総合的に活用しながら、いろいろな問題に取り組もうとしている。
評価材および評価方法				定期考査、小テスト 振り返りシート 授業課題	定期考査、小テスト 振り返りシート 授業課題	提出物（問題集、プリント、ファイルなど）の取組状況 振り返りシート